

## 日清製粉グループ 連結決算、次期連結業績予想

**当期は売上高4,419億63百万円、経常利益261億32百万円。**

### [平成24年3月期連結決算]

(株)日清製粉グループ本社(社長 大枝 宏之)の平成24年3月期につきましては、東日本大震災後の復旧・復興需要により日本経済に回復の兆しがみられたものの、震災の甚大な被害の影響、デフレ環境の継続に加え、欧州債務危機等を背景とした国内景気の減速懸念により、個人消費が低迷するなど厳しい市場環境が継続いたしました。当社は主要食糧である小麦粉及び各種製品の安定供給に最大限の努力を払うとともに、お客様との更なる関係強化を図り販売促進に努めました。また、各事業において、引き続き生産・物流などあらゆる方面でコスト削減に取り組みしました。そのような中、輸入小麦の政府売渡価格が昨年4月に5銘柄平均で18%、さらに10月に同2%引き上げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

この結果、当期の業績は、売上高は輸入小麦の政府売渡価格引き上げに伴う製品価格改定等の影響もあり、4,419億63百万円(前期比104.2%)と増収となりました。利益面では、コスト削減効果はあったものの、製粉事業におけるふすま価格の低迷及び小麦粉販売環境の悪化の影響等により、営業利益は231億13百万円(前期比91.2%)、経常利益は261億32百万円(前期比93.9%)、当期純利益は133億26百万円(前期比93.9%)となりました。

また、当社は海外事業拡大を最重要事項として推進してまいりましたが、本年3月に、米国の製粉会社であるMiller Milling Company, LLCの全持分を取得し、米国の製粉市場に進出いたしました。

### [平成25年3月期通期連結業績予想]

わが国の経済は、震災復興関連需要などのプラス要因はあるものの、欧州経済に関する懸念やエネルギー・資源価格の高騰を始め多くの課題に直面しています。また、今後の社会保障費用や税負担の増加懸念や長期化するデフレを背景に消費者の低価格・節約志向が継続するなど、当社グループを取り巻く状況は厳しいことが予想されます。さらに、電力に関しては、供給確保とともにコストへの影響についても対応が必要であります。このような環境下におきましても、当社は国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、各事業において安全な製品を供給するという使命を果たしてまいります。なお、輸入小麦の政府売渡価格が本年4月に5銘柄平均で15%引き下げられたことを受け、業務用小麦粉の価格改定を発表しました。

また、当社は長期的な成長を実現するため、本年度より中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」をスタートいたしました。本中期経営計画においては、トップライン(売上高)の拡大と海外事業拡大を最優先戦略と位置付け、個別戦略施策を実行してまいります。

以上の結果、平成25年3月期の連結業績予想につきましては、業務用小麦粉価格改定の影響はあるものの、各事業において出荷拡大に努め、売上高は4,591億円(前期比103.9%)、営業利益は235億円(前期比101.7%)、経常利益は263億円(前期比100.6%)、当期純利益は146億円(前期比109.6%)としております。

以 上